

I 経済の活性化

4 農林業の振興 2 林業の振興

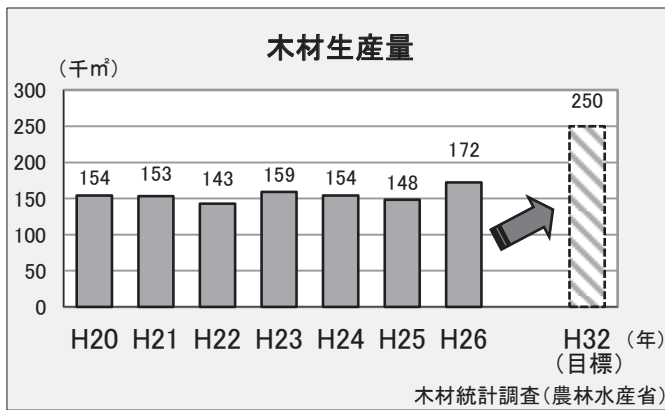
主担当部局(長)名
農林部長 福谷 健夫

目指す姿

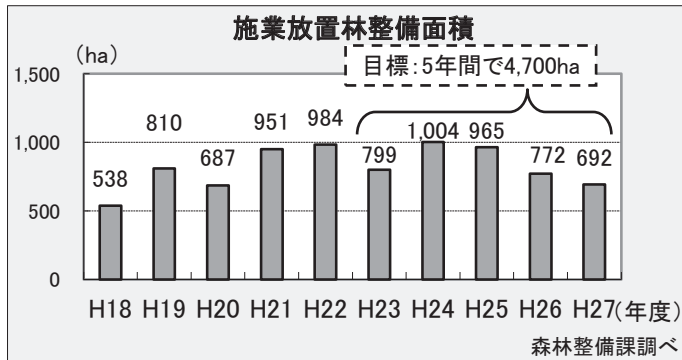
県産材の利用拡大と安定供給を図るとともに、森林の有する多面的機能を発揮させるため森林の適切な保全と活用を図ります。

関係部局(長)名:総務部長 一松 旬、地域振興部長 村田 崇、南部東部振興監 山本 尚、くらし創造部長 中幸司、景観・環境局長 中幸司、産業・雇用振興部長 森田 康文、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

1. 政策目標達成に向けた進捗状況

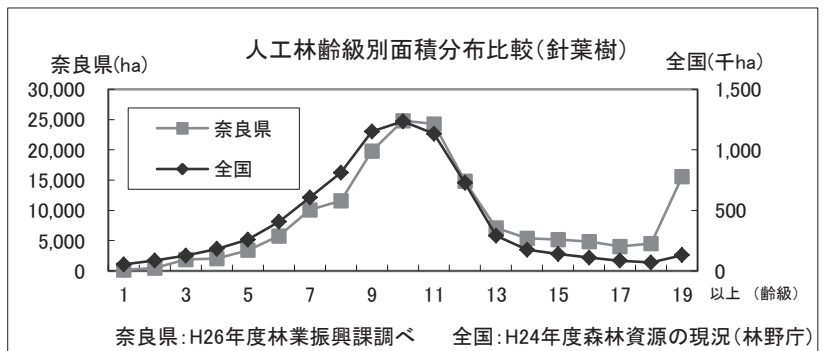
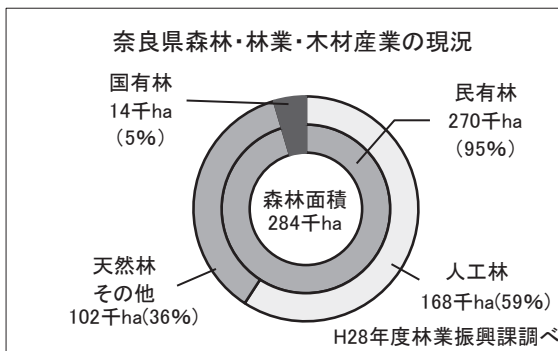


目標	木材生産量を平成32年度までに25万m³に増やします。(H25年度:14.8万m³)
取組	搬出コストの低減や、A・B・C材毎の受け皿の確保等に取り組みました。
成果	木材生産量は、平成20年からはほぼ横ばいの状況で推移していましたが、「奈良型作業道」の整備等への重点支援や地域認証材を使用した木造住宅建設への支援等を実施した結果、平成26年は172千m³とやや増加し、目標値(H32年)の約69%の達成率です。



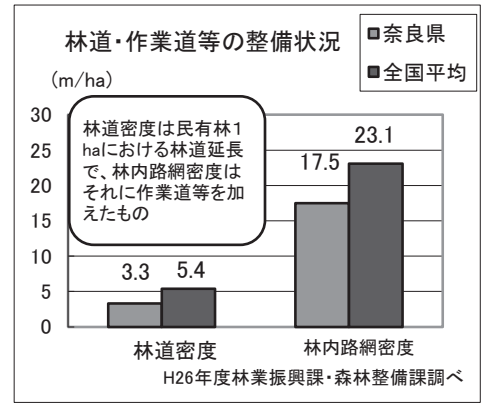
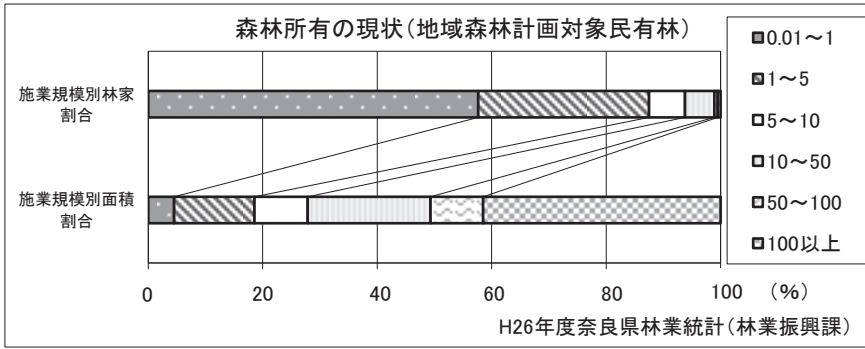
目標	施業放置林の整備を平成27年度までの5年間で4,700ha実施します。(H23~25年度:2,768ha)
取組	施業放置林(適切な手入れがされていない人工林)の整備に取り組みました。
成果	平成18年度に導入した森林環境税を活用して施業放置林の整備(強度間伐)を実施し、平成27年度には692haを整備したものの、5年間(H23~H27年度)で4,700haの目標に対して、90%の達成率(4,232ha)でした。

2. 現状分析



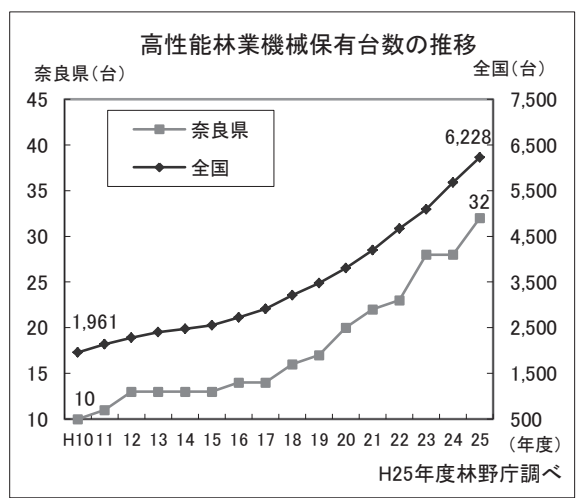
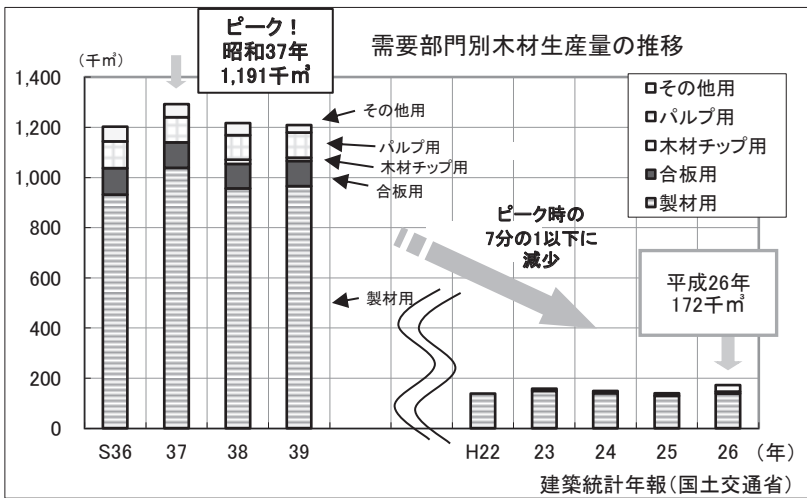
森林の大部分(95%)は民有林で、うち62%がスギやヒノキ等の人工林となっています。

戦後造林された森林が多く、除間伐等の手入れの必要な3から12齢級の森林が70%を占めている状況です。



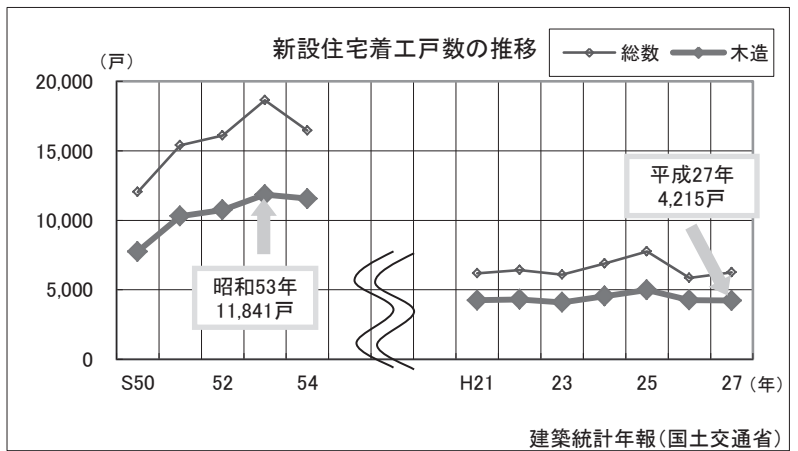
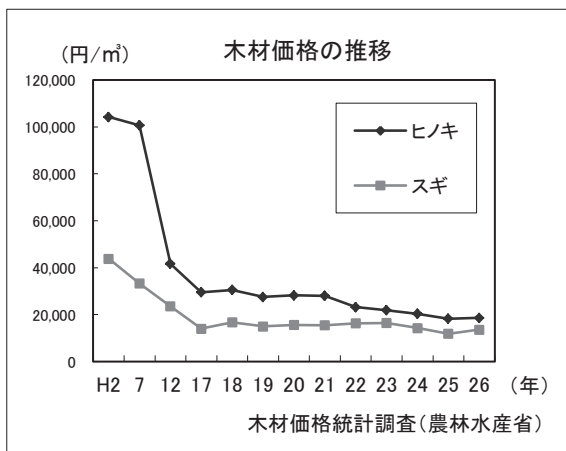
所有森林面積が5ha未満の小規模所有林家が87%を占める一方、所有森林面積50ha以上の大規模所有林家が全森林面積の約半分を所有しています。

急峻な地形等から、林内の路網整備は全国平均を下回っている状況です。



木材生産量は平成22年からほぼ横ばいの状況ですが、バイオマス発電に使用する木材チップ用の生産量がやや増加傾向です。

全国と同様に、高性能林業機械の保有台数は増加傾向です。



木材価格は平成7年以後急落し、平成17年以降は、漸減から横ばいで推移しています。

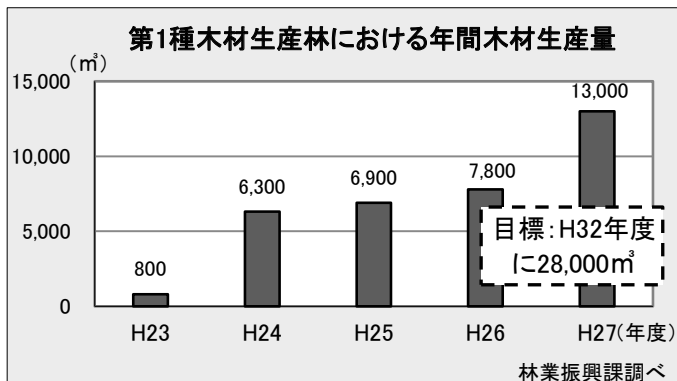
主要な木材需要先である新設木造住宅着工戸数は低調に推移しています。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業への転換を図ります。

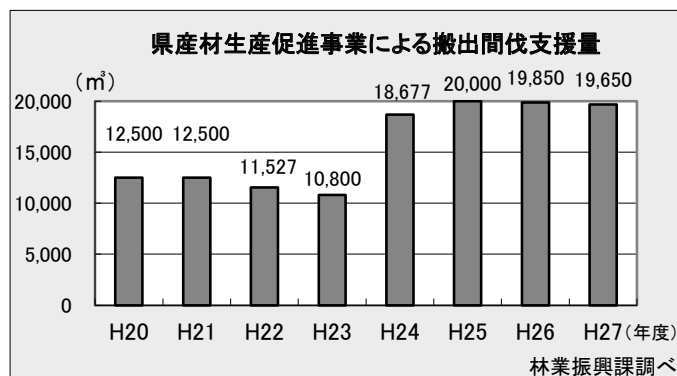
主担当課(長)名 林業振興課長 熊澤 弘治郎

戦略目標 ①木材生産林における木材生産量を平成32年度に25万m³に増やします。(H25年度:14.8万m³)



取組 第1種木材生産林において、搬出コスト低減を図るため、奈良県の地域特性を踏まえた壊れにくい奈良型作業道の開設支援を行う等、林内路網の整備を推進しました。(①)

成果 奈良型作業道整備の重点支援や、高性能林業機械の導入支援等により、平成27年度に第1種木材生産林の木材生産量は13,000m³に達しました。



取組 間伐材の搬出・利用に取り組む認定林業事業者へ、搬出経費の支援を実施しました。(①)

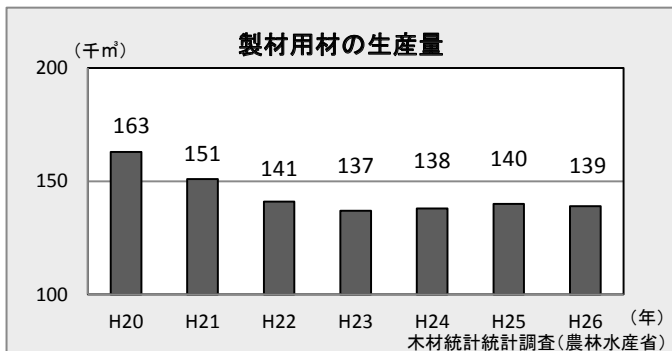
成果 第1種木材生産林等において、未利用間伐材の搬出を進めるため、平成27年度には補助対象をA材のみからB・C材へ拡大し、県産材生産促進事業に取り組み、総計19,650m³の搬出間伐に対して支援を行いました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
儲かる施業予定林を掘り起こし、森林所有者と素材生産業者とをマッチング(①)				
儲かる林業施業提案林における施業実施件数(件)	—	—	4	林業振興課
奈良型作業道や架線集材施設等による木材生産の拡大(①)				
第1種木材生産林の団地数(団地)	8	8	9	林業振興課
林道・作業道等の開設延長(m)	58,086	47,771	60,688	林業振興課

これまでの成果

- ・第1種木材生産林において、特に急峻な地域については路網と連携した架線集材により、奥地の木材を搬出するための事業を実施(架線集材施設設置支援事業:3事業体、設置延長:3,650m)しました。(①)
- ・国が平成23年度より創設した森林環境保全直接支援事業等を活用し、林業事業者の木材生産活動を支援しました。平成27年度は、利用間伐(間伐材を搬出・利用)を62,000m³(H26年度:42,600m³)出材しました。(①)
- ・森林所有者へ施業プランの提案等の働きかけができるように、現在活用している森林地理情報システム(森林GIS)に「儲かる森林」を検索・抽出できるシステム機能の追加を実施しました。(①)

戦略目標	①公共事業等における県産材使用量を平成29年度に7千 ^m に増やします。(H25年度:5千 ^m)
------	---



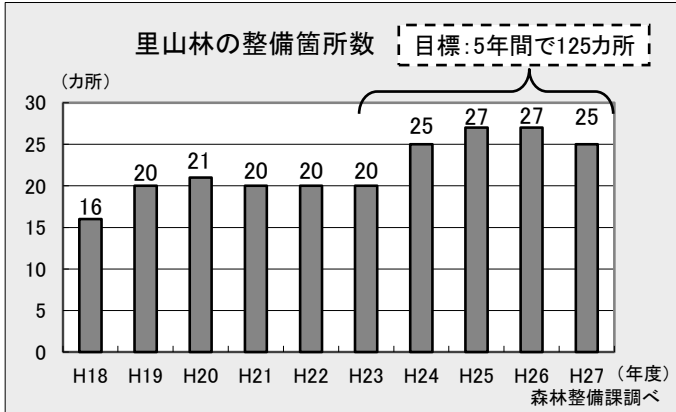
取組	県産材出荷量の増加を図るため、奈良の木を使用した住宅の建設に対する助成制度等を実施しました。(①)
成果	助成制度の実施により、住宅に県産材を使用する機運が高まりましたが、住宅着工戸数の低迷により、平成26年の製材用材の生産量は前年より1千 ^m 減少し、13万9千 ^m となりました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
ブランド力の強化と販路の拡大(①)				
首都圏で開催した「奈良の木」の講演会参加者数(名)	50	100	80	奈良の木ブランド課
建築物への県産材利用の推進(①)				
公共事業等における県産材使用量(^m)	5,000	3,000	5,330	奈良の木ブランド課
県産材利用住宅への助成件数(件)	52	70	252	奈良の木ブランド課
土産物等建築物以外への県産材利用の拡大(①)				
県産材を使った学習机・いす等を導入した学校数(校)[累計]	7	7	14	奈良の木ブランド課
ユーザーニーズに対応した新製品の開発等(①)				
「奈良の木マーケティング協議会」登録事業者数(社)[累計]	141	167	257	奈良の木ブランド課
奈良の木の魅力を発信する人材の育成(①)				
「奈良の木の匠養成講座」修了者数(名)[累計]	-	-	160	奈良の木ブランド課
森林への理解を深める奈良の木ツーリズムの推進(①)				
「奈良の木ツーリズムコースマップ」作成数(件)	-	-	1	奈良の木ブランド課
木質バイオマスエネルギーの利活用(①)				
木質バイオマスを利用したボイラー数(施設)[累計]	18	19	22	奈良の木ブランド課

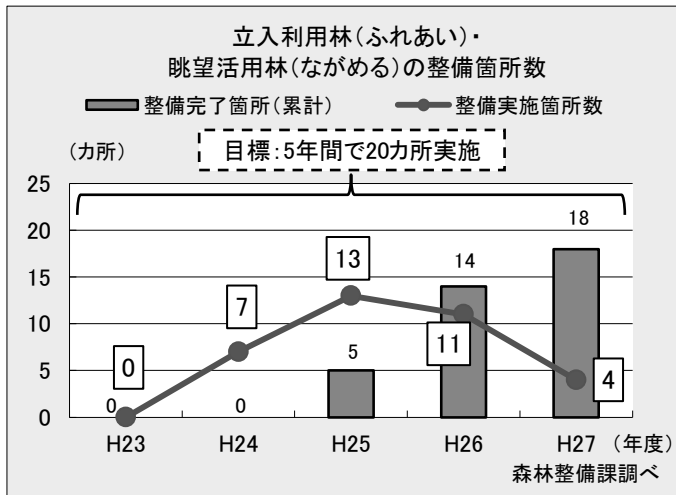
これまでの成果

- ・新たにプロジェクトチームを設置し、「奈良の木」贈り物の商品化に向けて、10点のデザイン開発・試作を行いました。(①)
- ・県内の高校生を対象とする「奈良の木を考える高校生熱中講座」を開催し、県の林業・木材産業について講義を行いました。(参加者数:180人)(①)
- ・「奈良らしい森林ツーリズム検討会議」を開催し、森林の療養効果等、森林に対する様々なニーズに応えられる奈良らしい森林ツーリズムのあり方についての検討を行いました。また、奈良の木の健康効果に興味がある県内及び近畿府県在住者を対象に「奈良の木ツアー」を実施し、効果検証を行いました。(参加者数:40人)(①)

戦略目標	①里山づくり推進のための整備を平成23年度から平成27年度までの5年間で125カ所実施します。(H23～25年度:72カ所) ②森林とのふれあい推進のための整備を平成23年度から平成27年度までの5年間で20カ所実施します。(H23～26年度:15カ所)
------	--



取組	里山林の整備に取り組みました。(①)
成果	NPO等の協力により、荒廃した里山林を整備していますが、整備団体の技術的な要因から実績が伸び悩んでいることから、プロによる整備も導入し、平成27年度は25カ所整備し、5年間で125カ所の目標に対して99%の達成率(124カ所)となり、目標を概ね達成しました。



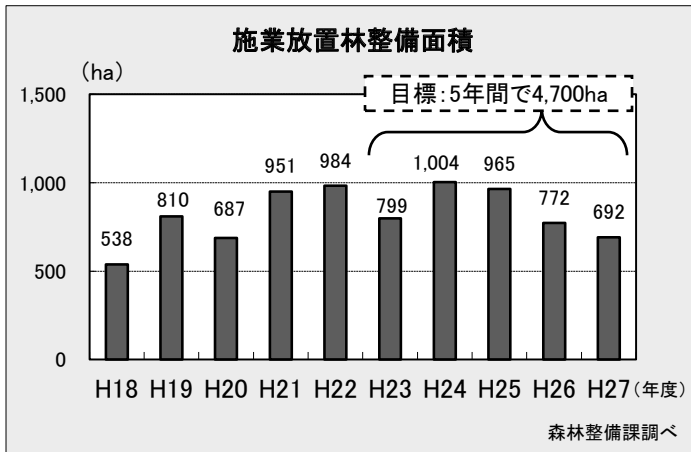
取組	地域の活性化に資することを目的に、林内への立入利用(ふれあい)や眺望利用(ながめる)の森林を整備しました。(②)
成果	奈良県景観計画に基づく森林区域の整備を、平成24年度からの累計で22カ所(完了18カ所、未完了4カ所)で実施し、目標の20カ所(H23～H27年度)を達成しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
「環境保全林」の整備・保全推進(①)				
野生鳥獣被害防止対策のためのニホンジカの捕獲数(頭)	6,927	8,105	8,086	農業水産振興課
ナラ枯れ対策実施箇所数(カ所)	2	2	12	森林整備課
森林・里山とのふれあい推進(①)				
森林環境教育指導者養成研修受講者数(人)	120	105	82	森林整備課
林業振興のための基盤整備(②)				
治山事業の工事完成箇所数(カ所)	65	41	47	森林整備課

これまでの成果

- ・里山づくりについて、平成18年度から奈良県森林環境税を活用して取り組んでおり、平成27年度までの間で、NPOやボランティア団体(延べ21,767人)が整備に携わりました。その整備した森林を、延べ22,192人が森林環境教育等で利用しました。(①)
- ・森林整備のあり方について、平成28年3月に「災害に強い森林づくり奈良県ガイドライン」を作成しました。(②)

戦略目標	①森林環境管理制度を平成28年度までに導入します。 ②施業放置林の整備を平成23年度から平成27年度までの5年間で4,700ha実施します。(H23～25年度:2,768ha)
------	---



取組	施業放置林(適切な手入れがされていない人工林)の整備に取り組みました。(②)
成果	平成18年度に導入した森林環境税を活用して施業放置林の整備(強度間伐)を実施し、平成27年度には692haを整備したものの、5年間(H23～H27年度)で4,700haの目標に対して、90%の達成率(4,232ha)でした。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
森林環境管理制度の導入(①)				
欧州型森林管理の普及啓発のためのワークショップ開催回数(回)	—	—	7	森林整備課

これまでの成果

- ・森林環境管理制度導入に向けて、国外の先進地(スイス)から森林管理者を招へいし、林業関係者を対象とした研修会を開催しました。(参加者数:244人)(①)
- ・ニホンジカによる森林・林業被害について、増えすぎた個体数を適正頭数へ誘導するため、狩猟者の育成・確保を実施し、平成27年度は8,086頭を捕獲しました。(②)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

<政策目標達成に向けた進捗状況>

- ・木材生産量は、平成20年からはほぼ横ばいの状況で推移していましたが、「奈良型作業道」の整備等への重点支援や地域認証材を使用した木造住宅建設への支援等を実施した結果、平成26年は172千㎡とやや増加し、目標値(H32年)の約69%の達成率です。
- ・平成18年度に導入した森林環境税を活用して施業放置林の整備(強度間伐)を実施し、平成27年度には692haを整備したものの、5年間(H23～H27年度)で4,700haの目標に対して、90%の達成率(4,232ha)でした。

<戦略目標達成に向けた進捗状況>

- ・奈良型作業道整備の重点支援や、高性能林業機械の導入支援等により、平成27年度に第1種木材生産林の木材生産量は13,000㎡に達しました。
- ・助成制度の実施により、住宅に県産材を使用する機運が高まりましたが、住宅着工戸数の低迷により、平成26年の製材用材の生産量は前年度より1千㎡減少し、13万9千㎡となりました。
- ・NPO等の協力により、荒廃した里山林を整備していますが、整備団体の技術的な要因から実績が伸び悩んでいることから、プロによる整備も導入し、平成27年度は25カ所整備し、5年間で125カ所の目標に対して99%の達成率(124カ所)となり、目標を概ね達成しました。
- ・奈良県景観計画に基づく森林区域の整備を、平成24年度から22カ所(完了18カ所、未完了4カ所)で実施し、目標の20カ所での実施(H23～H27年度)を達成しました。

<奈良県の持っている強み>

- 1 人工林1ha当たりの蓄積量が高く、かつ100年生以上の高齢級林分が多い等、森林資源は質、量ともに充実
- 2 密植多間伐の森林施業により年輪幅が狭く均一な木材が生産され、強度(ヤング率)が高い

<奈良県の抱えている弱み>

- 3 川上側(森林所有者、森林組合等)と川下側(丸太市場、木材協同組合、製材工場、工務店、設計士等)の連携が弱い
- 4 製材工場は小規模な工場の割合が高い(出力規模75kw未満の工場の割合…奈良県:80%、全国:63%)
- 5 小規模所有や不在村者の割合が高く、森林への関心や関与が弱まりやすい所有形態
- 6 吉野材に代表される高級材を選んで、ヘリコプターで搬出する林業が行われていたことによる、作業道の整備等並材等生産体制への対応の遅れ
- 7 植栽本数の多さ等から育林経費が高く、急峻な地形等から林内路網の整備や機械化が遅れ、木材生産の作業効率が悪い
- 8 林産物等への鳥獣被害
- 9 行政、業界団体、事業者等によるイベントやPRが散発的で効果が十分に発揮されていない

<奈良県への追い風>

- a 「公共建築物等における木材の利用の推進に関する法律」が成立(H22年)
- b 農林水産省の「森林・林業再生プラン」(H22年)に基づく、路網の整備、森林施業の集約化及び必要な人材育成を軸とした効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりの推進
- c 地球温暖化防止対策としての森林整備推進
- d 再生可能エネルギーに対する関心の高まり
- e 地域型住宅グリーン化事業の実施

<奈良県への向かい風>

- f 全国的に高齢化し、担い手が不足
- g 全国的な高級材の木材価格の低迷
- h 木造住宅の新規着工戸数の低迷
- i ニーズの変化による銘木市場の低迷
- j 木材製品の輸入拡大

《強みで追い風を活かす課題》

[重要課題]木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大(1,d)

- ・公共建築物への県産材利用の拡大(1,2,a)
- ・森林の活用促進(1,c)

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

[重要課題]低コスト集約化施業による利用間伐の推進(6,7,b)

[重要課題]林業振興のための基盤整備(山地災害の予防・復旧)(6,7,b)

[重要課題]森林環境管理制度の導入(5,b,c,d)

- ・一般住宅での県産材利用の拡大(3,e)

《強みで向かい風を克服する課題》

[重要課題]県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(1,g,h,i)

[重要課題]ユーザーニーズに対応した新製品の開発(1,2,g,h,i,j)

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

[重要課題]「奈良の木」の効果的な情報発信(4,9,g,h,i)

[重要課題]搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(6,g)

[重要課題]施業放置林の整備(5,f,g,h,i,j)

- ・県有林等の整備・管理(5,6,7,8,f)
- ・多様な担い手による森林づくり(5,f)
- ・林産物への鳥獣被害対策(8,f)
- ・一般住宅での県産材利用の拡大(3,h)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(戦略1)	高級材を選んで切り出す施策を見直し、搬出間伐材等の木材生産を進めるため、県職員自ら行う施業提案により、森林所有者と素材業者のマッチングを推進し、素材生産拡大を目指すこととしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大(戦略2)	A・B・C材毎の受け皿確保として木質バイオマスエネルギーに着目し、原料木材の安定供給、エネルギーの有効利用、採算性の確保のもと、実証実験を実施し、民間事業者による利用拡大を推進します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
低コスト集約化施業による利用間伐の推進(戦略1)	木材生産コストを低減するため、まとまった施業区域において、奈良県の急峻な地形や地質にあった壊れにくい奈良型作業道の重点整備と林業機械の導入を支援し、A・B・C材全てを搬出し、効率的な利用間伐を繰り返し実施します。
林業振興のための基盤整備(山地災害の予防・復旧)(戦略3)	緊急度・重要度の高い箇所を優先し、早期に対策を実施します。
森林環境管理制度の導入(戦略4)	森林を活用した地域づくりと森林環境の適切な保全を図るため、植生や伐採、生態系保全など森林の全てを管理できる人材の育成と管理制度の構築を図ります。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> ・県産高級材の需要が見込まれる首都圏等への積極的なPRを実施します。 ・新たな販路として海外市場の開拓を検討します。
ユーザーニーズに対応した新製品の開発(戦略2)	ハウスメーカー等の具体ニーズと森林技術センターが有する技術シーズのマッチング研究を行い、新たな木材製品の開発を行います。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
「奈良の木」の効果的な情報発信(戦略2)	「奈良の木」のPR効果を最大限に発揮するため、インターネットを活用し、県産材に関する情報を集約した核となるポータルサイトを設置します。
搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(戦略1)	A・B・C材全てを搬出し、効率的な搬出方法が実践できる見込みのある「儲かる林業の施業」が可能な森林を発掘し、施業の提案を行います。
施業放置林の整備(戦略4)	<ul style="list-style-type: none"> ・施業放置林の調査、森林所有者への普及啓発活動を推進します。 ・森林環境の改善のため、強度間伐等を実施します。